

## 令和6年9月第4回真庭市議会定例会 市長諸報告

(令和6年9月3日)

皆様、おはようございます。本日ここに、令和6年9月議会定例会を招集しましたところ、議員の皆様にはご参集いただき、誠にありがとうございます。

それでは、6月定例会での報告以降の真庭市政の主な動きを中心に申し上げます。

### (地域防災力の強化)

全国各地で命の危険を感じるほどの猛暑が続くなど、異常気象が「日常」化してきました。本市においても24時間の降水量が100ミリを超える日もありました。

今回の迷走台風10号による真庭市の被害は軽微でしたが、これから迎える本格的な台風到来の時期に備え、市民一人ひとりが自分や家族の安全をどのように確保するか、事前に想定していただくことをお願いします。

自主防災組織を中心とした自助・共助の活動が大事であることも繰り返しお願いしています。真庭市や消防団、地域の皆様が一緒になってさらなる防災力強化に取り組んでまいりましょう。

### (森の芸術祭)

今月28日から開催される森の芸術祭では、11月24日までの会期中、13か国40名のアーティストによる様々なイベントが行われます。真庭市でもグリーンナブル蒜山と勝山町並み保存地区で作品が展示されるほか、連携事業として「ピックアッププログラム」が市内各地で開催されます。

勝山町並み保存地区では、建築家、妹島和世さんの作品展示にあわせて、芸術祭の推進組織「マニワ バウム」の取組として、真庭市出身の画家、難波香久三さんや鉄筋彫刻家の徳持耕一郎さんの作品、勝山駅には本市出身の建築家、畝森泰行さんの作品を展示し、町並みを彩るとともに、市内各所に展示してある田中直子さんの樹木を描いた作品などを巡る企画を実施します。また、市内の駅や「道の駅」では高校生が作成したまちを紹介するトリップカードの設置や、駅舎を活用し幻の鉄道路線「南勝線」を掘り下げるイベントを実施します。

蒜山地域では、今月29日に5つの会場で開かれる「海山マルシェ 2024～海の市・山の市真庭～」や、来月にはトレイルランレース「FORESTRAIL HIRUZEN-SHINJO」が、また、蒜山の夜を楽しむ「キャンドルナイト」と「スターウォッチング」などが企画されています。

落合地域では、今月22日から29日まで開かれる「第21回落合まちかど展覧会」や、11月には木山街道をレーシングカーが疾走するヒルクライムイベント「まにわそくさい真庭速祭」が初開催されます。

久世地域では、来月、久世駅周辺や商店街などを会場にパネル展示や映画上映、シンポジウム、音楽などを楽しむ『久世芸術祭 2024「久世げー」』が開催されるなど、市民

皆様の手によって実施されます。

このほか、芸術祭を地域で盛り上げる「フレンズプログラム」として、市民が中心となり展覧会や音楽祭、文化祭など約 30 のイベントが市内一円で行われ、この秋、市内はアート一色になることでしょう。

なお、期間中は、真庭観光局による「真庭アートツアー」や、旅行会社などによる市内を巡るツアーの催行、JR 線の乗り放題切符の販売、会場間を結ぶバスや道の駅「風の家」を発着する高速バスの運行開始や 2 次交通などの環境整備など、多くの方々をお迎えする準備を進めています。

芸術祭をより気軽に楽しめるよう特典や割引なども用意していますので、是非、この機会に楽しんでいただくとともに、このイベントを市全体で盛り上げていきましょう。

### **(県立高校再編への対応)**

真庭高校が再編対象校となる中、5月に立ち上げた県内 27 自治体の全首長が参加した「県立高等学校の在り方を考える会」の活動に加え、先の臨時議会では、市内県立高校同窓会 5 団体から提出された高校の再編整備に係る請願の採択と、これを受けた議員発議による意見書が可決されました。

加えて、先月 27 日には各校の同窓会や団体の代表者が多数集まり、「真庭の高校の未来を考える会」が開催されました。市民や関係者が一体となって高校の魅力化、存続に向けた取組を進めることを確認したほか、画一的な数による再編議論をする前に各高校の魅力化の取組を県が責任をもって実施するよう、県と県教育委員会に対し要請を行うことを決定しました。こうした熱い内容をしっかりと県に伝えるなど、拙速な高校再編計画の抑止に向けて行動しましょう。

なお、申し上げるまでもなく、真庭市では、市内高校の魅力化に果敢に取り組んできましたが、今年度も、当初予算に加え 6 月定例会でも補正予算を組み、7 月臨時会では 2 億円の「真庭市ゆめ学び創造基金」を創設しました。本定例会でも、大学と連携した最先端農業に触れる機会の提供や生徒によるビジネスアイデアの実践等、高校の独自性や魅力を創出する取組のほか、ビジネスに必要なスキルの取得費用の支援など、この基金を活用して真庭市で学ぶ生徒の成長とチャレンジを後押しするための関連予算を提案します。

高校は、地域産業にも大きな影響を与え、また、地域を活性化する重要な役割を担っています。市内の高校が生徒に選ばれる魅力ある高校へ転換し、入学者数の増加を目指し、地元真庭市としてできることはスピード感をもって取り組む一方、設置者である県への働きかけを地域一体となって強めていきます。

### **(第 3 次真庭市総合計画の策定)**

6 月の総合計画審議会での熱心な審議や、これまで 2 回開催した庁内の推進本部会議で全体構成や人口ビジョン等の議論を深め、既存の計画や事務事業とのすり合わせ作業を進めています。市民議論の場である「ものがたり会議」は、6 月から計 6 回開催し、幅広い年代層から 146 名の方にワークショップに参加いただき、7 月に開いた「学生版ものがたり会議」には、高校生 50 名が若者ならではの意見を出し合いながら未来について語り合いました。今後、これらのご意見に加え、市民アンケートの結果なども踏ま

えながら精力的に検討を進めるとともに、議会との意見交換も行うなど、迅速かつ丁寧に検討を深めてまいります。

### (人口減少対策)

人口減少対策本部会議において部局の所管を超えた視点から議論した成果を早急に事業化します。

若者や子育て世帯等が住みやすい住環境の整備に向けて、民間事業者が市の遊休地に賃貸住宅等を整備することの実現可能性や必要な支援を調査し、市内への賃貸住宅等の良質なストック形成を図ります。また、関西圏在住の女性層をターゲットに、本市への関心を高めるプロモーションや、結婚、出産、子育てによる若者のUIターンや二地域居住の希望者が、本市にお試し居住する場合の家賃の一部を助成し、定住人口の増加を目指します。

以上の事業を本議会に提案しますが、特効薬はありません。市民の皆様のお力をいただきながら、人口減少対策に総力を挙げてまいります。

### (旧久世校地利活用の検討推進)

これまで検討してきた組織を「久世校地を活用した<sup>モク</sup>“木”の教育研究拠点整備検討委員会」に改称し、林業、木材、木造建築関連の教育研究拠点の構築に加え、新たに岡山大学と岡山県を中心に、県北自治体、関連企業・団体の賛同を得て、林業、木材、木造建築の振興を目的とした研究開発プログラムに取り組むことが同委員会で合意されました。また、久世校地の事業化には、公民連携事業による民間のノウハウ・提案を最大限活用するため、民間企業へのサウンディング型市場調査も行っており、引き続き、関係団体等との全体調整を図りながら推進します。

それでは、市政の現状と最近の成果、今後の取組について、その主なものを報告いたします。

### 1つ目は、地域みんなで子育てを応援する「こどもはぐくみ応援プロジェクト」です。

主な事業の進捗ですが、相談支援として導入を進めている妊娠から出産、子育て期までの手続等をデジタルで行うアプリ「母子<sup>ボシモ</sup>」は、こどもの成長や健診記録、予防接種のスケジュール管理、情報のプッシュ通知機能などを備えています。来月には一部の機能を、年明け1月には本格稼働できる見込みです。

また、子育て環境の整備ですが、先月開催した「夏のこどもまんなかミニまつり」には約400人の来場があり、その中で、子育てに関するSNSでの発信や情報交換を行う「こどもはぐくみくらぶ」の部員に7名を任命し、保護者の視点から市での暮らしや子育てに関する情報を発信する活動を開始しています。

さらに、岡山県が昨年調査した分析結果で明らかになった子ども、子育てに関する真庭市民の希望、価値観、地域や職場環境との関係なども参考にしながら、市民とともに「みんなではぐくむ子育てのまち まにわ」の取組を一層進めてまいります。

### (幼児教育・保育環境の充実)

久世校地跡に新設する「公立認定こども園」の整備は、「認定こども園建設検討委員会」や「こども・子育て会議」の協議を経て建設基本計画を策定し、先月、設計事業者を決定しました。今年度に設計を終え、次年度からの2か年で建設工事を行い、令和9年4月の開園を予定しています。なお、真庭産木材を使用した脱炭素の視点に加え、木の遊具等による木育、最新 ICT 技術による子どもの見守り機能の導入など、入園児と地球環境に優しい園にする方針です。

### **(学校給食の推進)**

学校給食のあり方については、市内の学校給食共同調理場6か所にそれぞれ設置している学校給食運営委員会を中心に検討を進め、学校給食は「学校教育」の一環として、行政や保護者はもとより、社会全体で支えるべきものであり、無償化については自治体間の格差を生まないよう、国の責任において財源を確保すべき性格のものとの見解に至りました。現時点においては、この見解を生かし、引き続き全国市長会等を通じて国に強く要望していきます。

一方で、給食費の単価については、昨年度に改定を行い、その引き上げ分を市が負担し保護者負担額を据え置く措置を講じていますが、食材費の高騰が続く中、子どもたちの健全な成長に必要な学校給食の質を確保するとの観点から、今後、いかに対応するか学校給食審議会で議論をすることになっています。その際は、経済状況を考慮し、市の負担措置の継続による保護者負担額の軽減についても併せて検討してまいります。

### **(高校教育魅力化の推進)**

勝山高校では、初の試みとして民間事業者による夏期講習や特別講義を始めたほか、同窓会による生徒の学びの向上心を応援する「鼓山塾」が今年も開催されました。地域や実績豊富な民間企業等との積極的な連携により、進学校にふさわしい学力を身に付け、社会に主体的に関わる力の成長を期待します。

蒜山校地では、生徒の発案により、地域の支援を受けながら授業で取り組んできた成果をイベント化し、地域に還元する地域活性化イベント「ヒルコウ・サンサン・フェス」を7月に初開催し、500名が来場する盛況ぶりでした。また、蒜山学習交流センターの建設は順調に進んでおり、全国公募の生徒募集には、休日夜間を問わず関係者が対応しています。オープンスクールには、これまで市内44名、県内5名、県外6名の訪問があり、引き続き丁寧なフォローにより入学生徒の増加に努めます。

真庭高校では、6月から市と連携した「社会起業家育成プログラム」を開始し、食農生産科と経営ビジネス科の1年生を対象に、地域課題をビジネスで解決するプロセスを学ぶ課題探求の授業を行い、0から1を生み出し、これからの時代を生き抜く力を持つ産業人材の育成に取り組めます。また、マイスター・ハイスクール事業で培った地域をフィールドとした実践的な授業に磨きがかけられ、更なる強みになっていくものと確信しています。

このように市内各校は頑張っています。この取組を広く発信するため、7月に新聞広告を出したところ、各校地の SNS 登録者数が増加するなど反響があり、オープンスクールへの申込み者増加などを期待していますが、依然厳しい状況にあります。真庭の高校に行こうと、この場から呼びかけるとともに、市の立場からあらゆる支援策を講じてま

います。

### **(図書館の充実)**

こどもたちの読書環境の向上を目指し、今年度から児童・生徒が学校で公共図書館の本を取り寄せ自宅で読むことができる環境を整えたことにより、先月末現在、26校で約2千冊と、ほとんどの学校で利用されています。

また、中央図書館では昨年度好評だった「100年前の植物標本展」を今年も引き続き開催しました。今後も利用者を増やし、新しいつながりや学びを生み出す図書館づくりを推進してまいります。

## **2つ目は、自分らしく暮らせる「共生の地域社会まにわ」の実現です。**

### **(SDGs・共生社会の推進)**

「子どもたちと学ぶ私たちの未来」をテーマに岡山市で先月開催された「おかやまSDGsフェア」に真庭市も参加し、「バイオマスツアー」や「有機廃棄物資源化」などに関する展示と事例発表を行いました。

大阪関西万博との「共創」を大きな柱に位置付けた今回、関西で活動する若者との交流プログラムの一環として、環境問題に取り組む神戸市内の学生37名が蒜山を訪れて真庭市の取組を学びました。引き続き、市内外に向けた脱炭素の意識醸成やESD(持続可能な開発のための教育)の普及啓発など、広くSDGs推進の底上げを図ってまいります。

また、隈研吾氏設計のシグネチャーパビリオン「アーススマート」の大屋根を蒜山をはじめ全国5地域の茅で葺きます。茅提供の地域が連携しながら、自然共生と蒜山・真庭を発信するための予算を本定例会に提案するとともに、このパビリオンの活用を検討します。

### **(市民意識の醸成と恒久平和の実現)**

ロシアのウクライナ侵攻や中東の軍事衝突など、世界が核の脅威にさらされている中、真庭市では平和に対する新たな取組として、8月6日の広島平和記念日に、市内の児童・保護者10組を「ヒロシマ平和学習受入プログラム(ひろしま子ども平和の集い)」に派遣し、平和の尊さと命の大切さを体感いただきました。今後、参加した児童たちがこの経験で学び、感じたことを学校・家庭・地域等で発信し、平和を目指すうねりになっていくことを期待するとともに、引き続き核兵器廃絶や平和に対する市民意識の醸成に努めてまいります。

また、ウクライナへの人道支援のため、岡山県の呼びかけに応じて、廃車予定の救急車と小型動力ポンプ積載車各1台を無償提供しており、市でできる支援は惜しまず取り組んでまいります。

### **(新型コロナウイルスワクチン定期接種)**

今年度から「定期接種」となり、この秋冬に65歳以上の方及び60歳以上64歳以下で重症化リスクの高い方を対象に実施するための関連予算を本定例会に提案し、個人の発病と重症化を防ぐ取組を進めます。

### **(認知症の正しい理解の普及・啓発)**

今年施行された認知症基本法で9月が「認知症月間」と定められ、真庭市においても認知症支援のシンボルカラーであるオレンジ色にちなみ、今月を「まにわオレンジ月間」とし、今月8日に認知症疾患医療センター(向陽台病院)との協働による「認知症セミナーin まにわ」を昨年に引き続き開催します。また、新たに若い世代から認知症に対する理解を深める研修会や関連プロジェクトに真庭高校と連携して取り組みます。なお、介護認定率の低減と認知症予防に効果があるとされる「集いの場」も先月末現在で100会場に達しました。この場をもっと活用し、認知症への正しい理解の普及・啓発を進めてまいります。

### **3つ目は、市民とともにつくる持続可能な地域づくりです。**

#### **(公共交通の利便性向上)**

姫新線の維持・存続に向けた行動として、JR西日本の株式1億円分を7月に購入しました。同様の対応をする自治体とも連携し、株主として経営に関与し、地方の足を守り利用者サービスの平等性の観点と利便性向上を訴えてまいります。

「チョイソコまにわ」の登録者は、先月末時点で1,238人、利用件数は運行開始から延べ5,671件、月平均約520件で、スポンサー数も少しずつ伸びてきており、引き続き普及と利用促進に取り組むとともに経営改善も検討していきます。

#### **(市内交流の活性化)**

真庭観光局が実施する市民向けSDGs交流ツアーの参加ニーズが高いため、新たに森の芸術祭の会場となるグリーンブル蒜山と勝山町並み保存地区を巡るコースを対象とした追加予算を本定例会に提案します。芸術祭を一層盛り上げるとともに、より多くのツアー参加者にSDGsの取組や地域の魅力を再発見いただき、市内交流が活発化することを期待しています。

#### **(まにわ里山留学)**

先月開催した「蒜山こども源流ステイ」には募集開始から数日で定員に達するなど、短期や中期留学の応募が好評で、今年から中和小学校で受け入れた1名の長期留学も含め、地域と学校が一体となった取組を進めています。真庭市ならではの里山の暮らしや豊かな自然、多くの人との交流を通じて心が動き出すような体験を提供し、定住促進につなげてまいります。

#### **(まにこいん・<sup>けんこう</sup>健幸ポイントの普及)**

7月16日からローソンATMでチャージが可能となり利便性を高めたほか、7月末まで実施した『まにこいんチャージキャンペーン』では3,400万円を超えるチャージがあり、今後の消費活動の活性化に期待しています。

また、利用額の5%をポイント還元する『くらし応援キャンペーン』や、取扱事業者の加入を促進する『事業者応援キャンペーン』を今月末まで実施しており、引き続き流通量拡大に向けた取組を進めてまいります。

健幸ポイントは、先月末時点で約13,200ユーザーと、市民の健康や幸せづくりを応援するアプリとして活用されており、来月には事業所や仲間などのチームで歩数アップに取り組む「まにわ大運動会1日プラス1,500歩」など、アプリを活用した健康づくり

活動にも積極的に取り組み、社会貢献活動を応援するなど機能の幅を広げ、アプリの価値を高めてまいります。

#### **(市指定文化財「大御堂」の耐震対策)**

平安末期の古材が使われた建物を後世に残していくため、地元の社地区が「大御堂 800 年計画委員会」を 6 月に立ち上げ、真庭市や市教育委員会、岡山大学等と共同で地盤調査を行いました。耐震工事は今月下旬に着工し、年度末の完成に向け、社地域の歴史的行事を行う場として末長く活用されるよう市として支援してまいります。

#### **(久世体育館等の解体)**

北町公園については、昨年度「基本構想」を取りまとめ、周辺道路の継続的な整備や公園全体の長寿命化計画の策定などを計画的に進めているところです。また、老朽化の著しい久世体育館については、基本構想も踏まえ、体育館機能のほか、防災や子育てなどの複合的な機能を備える新たな施設を公園内に整備することとし、今後、具体的な検討を行ってまいります。これに伴い、久世体育館等を旧久世校地体育館等へ仮移転するとともに、合併特例債を活用し久世体育館等の解体を行うこととし、その関連経費及び改正条例を本定例会に提案します。

#### **(下水道施設の改築更新)**

施設全体を対象にしたストックマネジメント計画を策定して市内 6 つの処理施設の改築を計画的に実施しており、7 月に久世浄化センターの改築工事が完了しました。

農業集落排水事業では、6 つの処理区の施設の維持管理費削減のため、効率的な汚水処理区のあり方を検討し、今年度から宮地処理区と鹿田・美川処理区の統合と老朽化設備の更新事業に着手し、今後 40 年間で約 10%の経費削減効果を見込んでいます。

#### **(県道整備と橋梁長寿命化の状況)**

県道垂水追分線の下河内地区で進められていたバイパス工事が完成し、この夏から供用開始されました。県道神代勝山線も、神代地内でバイパス整備が進められており、今年度中には供用開始の予定です。このほか県や関係機関等へ要望してきた国道、県道の整備が着々と進められており、引き続き市民生活にとって重要な道路整備を要望してまいります。

また、橋梁については、市内 1,050 本の市道橋と、高速道路の跨線橋を含めた農林道橋 118 本のうち、今年度は 206 の市道橋と 51 の農林道橋の点検、11 本の修繕工事を行う予定であり、今後とも計画的かつ適正な管理に努めてまいります。

#### **(振興局の取組)**

**蒜山地域**では、「山乗溪谷そうめん流し」が再開され、季節の賑わいを取り戻しています。7 月には「風のパレット HIRUZEN」でマツダ陸上部を招いたクロスカントリー大会が、先月にはグリーンブル蒜山で「夏恋まつり」が開催され、道の駅「蒜山高原」ではパン屋がオープンするなど、誘客につながる新たな動きも生まれています。

**北房地域**では、真庭なりわい塾の実践講座が上水田地内の集落を中心に行われ、住民とのふれあいを通じて地域で昔から引き継がれてきた行事を学んでいます。里山資源を活かした「遊び場づくり」の実践も予定しており、今後も塾生の活動を応援してまいります。

また、北房未来づくりネットワークの「空き家活用チーム」による地域認定空き家と移住者のマッチングによって、昨年6月から4組の世帯を受け入れており、地域の力で成果をあげています。

**落合地域**では、7月の落合納涼花火大会に多くの観客が訪れ、会場周辺はコロナ前の賑わいを取り戻し、地元の出店者も多くなっています。また、今大会から会場内のゴミ箱設置を取りやめ、ゴミ削減の意識醸成にも努めています。

**久世地域**では、先月開催された「リバーサイドフェスティバル」に市民有志による出店も増え、地元の子どもたちによるステージイベントや臨場感あふれる花火に多くの市民や帰省客で盛り上がりました。

また、来月5日には、久世河川敷のスケボーパークをキャンパスに日本一大きな地上絵を描くイベント「ミューラルプロジェクト」が、地域団体により開催予定であり、ストリートカルチャーの融合によって若者の交流の場が進化していくことを期待します。

**勝山地域**では、町並み保存地区の「郷宿」の運営者が決定し、同地区の誘客や移住支援、空き家対策などの拠点となることを願っています。

また、旭川河川公園で若者がアーバンスポーツに取り組める環境整備も11月の完成に向け順調に進んでおり、地元高校の魅力化を含め、関係団体との連携を深めています。

**美甘地域**では、6月にクリエイティブ菅谷のセンターハウス食堂でカフェのオープンや田舎定食の提供が始まったほか、「<sup>ト</sup>土<sup>ム</sup>夢<sup>キ</sup>木<sup>ム</sup>夢<sup>ノ</sup>館」では音楽や木工をテーマにした体験活動ができるようになり、今後も地域の主体性を活かした継続的な事業運営を支援してまいります。

**湯原地域**では、「はんざきアート」や新たに設置される「のれん」で彩られた温泉街を、謎解きを楽しみながら巡る企画などで森の芸術祭期間中の滞在時間を延ばし、宿泊増加を目指します。

二川地区で「こどもの居場所づくりと子ども食堂事業」として開催した「夏休みわんぱく学校」に延べ約200人が参加し、こうした地域を中心とした子どもをはぐくむ取組が継続するよう、引き続き支援してまいります。

#### **4つ目は、未来に向けた「回る経済」の推進と脱炭素への挑戦です。**

##### **(生ごみ等資源化プロジェクト)**

「生ごみ等資源化施設」と「バイオ液肥濃縮施設」の総称を「真庭市くらしの循環センター」とし、先月、市民から募集した愛称283点の中から「まにくるーん」と決定しました。「まにくるーん」は、「生ごみ」などのバイオ資源が循環する拠点施設として今月から試運転を開始し、分別された生ごみを投入していますが、年明けの本格稼働に向け、これまで未分別だった地域でも分別が始まります。改めて、市民皆さんに生ごみを始めとする資源の分別に理解と協力をお願いするものです。

また、このプロジェクトが、日本の先進的な脱炭素の取組を途上国にも広げる環境省の事業に採択され、インドネシア共和国のマカッサル市(人口約143万人)との連携による実現可能性調査が、国立ハサヌディン大学(学生数約43,500人)を実証地として実施されます。今月13日には、マカッサル市副市長が本市を来訪予定であり、国際的な社



会貢献にも積極的に協力してまいります。

### **(焼却施設集約化の推進)**

市民皆さんの資源分別の協力によって可燃ごみが減少し、既存の焼却施設を集約化して廃棄物処理経費や二酸化炭素排出量を削減するため、「北部クリーンセンター」は来月以降施設の解体を進める一方、廃棄物を持ち込むことができる「簡易中継施設」の整備に着手します。

また、「コスモスクリーンセンター」は可燃ごみの受入れを今年度末までとし、施設解体に要する関係予算を本定例会に提案します。

### **(ゼロカーボンシティ実現に向けた取組)**

公共施設への太陽光発電設備の設置事業は、事業者を7月末に選定し、今月下旬から本格的な設置工事を開始し、5か所の設置により年間約670万円の電気代削減を見込んでいます。また、小水力発電事業は、具体的な地域を選定して水量調査や地形調査を行うため、地元や漁協等の関係者と調整を進めています。

電気の地産地消を実現する地域新電力会社の設立については、出資候補者や出資額等の調整が概ね整い、現在、執行体制や業務内容など詳細を関係者と協議中で、今年度内の設立に努めます。

### **(持続可能な観光地域づくりの推進)**

包括協定を締結している和歌山大学との連携事業として、今月、蒜山スターウォッチングのブラッシュアップや「持続可能な観光地域づくり」を学ぶ講義を真庭観光局と共同で実施する予定で、大学生のほか地元高校生も参画します。

また、ガイド業、観光業従事者に向けた研修事業を昨年度から実施しているほか、岡山県が実施する「蒜山エリアにおける国立公園満喫プロジェクト推進事業」も観光人材育成の貴重な機会と捉え、観光地域づくりを支える「人」の育成に継続的に取り組みます。

### **(真庭産農畜産物の販路拡大)**

先月、関西圏のバイヤーやホテル・レストラン関係者を真庭市に招き、生産者等との商談会と現地視察を行いました。今月には阪急百貨店のイベント等で真庭産オーロラブラックなどの販売も予定しており、引き続き生産者やJA、県、企業等と連携し、真庭産農畜産物の魅力発信やブランド力向上を目指します。

なお、7月末に大阪駅前オープンした大阪ステーションホテルでは、蒜山ジャージーを冠した牛乳やヨーグルト、クリームチーズ等が提供され、真庭の農畜産物の魅力が高まっています。

### **(地域循環型農業の推進)**

蒜山地域における畜産バイオガス発電プラントの実現可能性について、中国四国酪農大大学校や畜産農家、畜産関係団体と連携した調査事業を進めており、経営規模に合わせた比較的小規模なプラントでの発電や発生する残渣を、液肥や再生敷料などに有効活用するとともに、採算性なども含めた検証を行い、資源循環型の酪農経営の確立に取り組んでまいります。

### **(森林保全の取組)**

第 74 回全国植樹祭のサテライト会場となったグリーンブル蒜山では多数の来場者で賑わいましたが、11月に「風のパレット HIRUZEN」を会場に、植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えになった苗木を定植します。こうした有意義な取組を森林保全につなげ、再造林等の森林整備を積極的に進めます。

#### **(鳥獣害対策)**

造林地での苗木の食害などシカ被害が特に深刻化しており、捕獲数も過去最高の捕獲実績であった前年度の同時期に比べ、7月末時点で15%増という状況です。

今年度、新たに森林環境譲与税を活用し、造林地での効率的な防護、捕獲をGPSや監視カメラデータ等の技術を活用した実証事業を進めるほか、「食」として評価の高い真庭の「シカ肉」を、ミシュランシェフの審査等を経て都市圏への販売促進を加速させる取組を国の事業を活用して行うなど、「攻め」と「守り」両面での鳥獣被害対策を推進していきます。

#### **物価高騰対策**

国の経済対策として定額減税を実施し、減税しきれない市民に対する「定額減税補足給付金」と、今年度、新たに支給対象となった世帯に対する「低所得者支援給付金」の対象者には7月下旬から順次「確認書」を発送しています。確認書の審査を終えた方には、先月20日から支給を開始しており、速やかな支給に努めてまいります。

以上、市政運営の状況について、主なものをご報告しました。なお、今定例会では、認定12件、報告2件、諮問1件、条例や補正予算議案など14件、総数29件のご審議をお願い申し上げます。

また、諸議案の内容については、日程に沿い順次説明しますが、慎重な審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願い申し上げます。開会にあたっての挨拶と業務の報告とさせていただきます。